



発行：京都府立峰山高等学校広報担当 所在地：京都府京丹後市峰山町古殿1185番地
Tel:0772-62-1012 Fax:0772-62-1013 www.kyoto-be.ne.jp/mineyama-hs/

産業工学科の活動

・3年生課題研究校内発表会

1月21日(木) 5・6校時に3年生が課題研究校内発表会を実施しました。昨年までの5年間は、府立の工業系を有する高校が、合同で行う課題研究合同発表会が開催されており、校内発表会はその代表選考会になっていましたが、今年度からは合同発表会が開催されなくなったため、生徒たちの一度限りの発表会となりました。

デザイン系統はドレス・浴衣の製作、アニメーションの製作、フェイクスイーツの製作について、機械系統は技能検定への取組、SFCを利用したシーケンス制御についての研究、バイクのサイドカー製作、おもしろ自転車の製作、シート巻き取り機の製作についての発表を行いました。来年度課題研究に取り組む2年生は3年生の発表を熱心に聞いていました。

<発表の様子>



・2年生校外実習

2月1日(月) 産業工学科機械系統の2年生26名が舞鶴にあるポリテクカレッジ京都において「電気基礎」に関わる実習と講義を受講してきました。実習では電子回路の組み立てを行いました。ソーラーパネルで発電した電気を蓄電池に貯め、発電しない暗さになると発光ダイオードが光るといった回路の製作でした。生徒たちはこの製作に苦勞をしている様子でしたが、完成させるとうれしそうに笑みをこぼしていました。また、ソーラーカーレースのビデオ教材を取り入れた講義を生徒は興味深く聞いていました。



・1年生校外学習

2月3日(水) 産業工学科1年生40名がポリテクカレッジ京都へ校外実習に行ってきました。午前中は、学校の概要説明を聞きました。午後からは、情報通信サービス科の実習室において、自分でインターネット上の画像を編集し、反転印刷したシートを無地のマグカップに熱転写するという実習を体験させていただきました。各自、興味のあるデザインを活用して熱心に取り組むことができました。



府立高校特色化事業 (グローバルネットワーク京都交流会)

2月6日(土)、京都府立大学において、京都府教育委員会から「グローバルネットワーク京都」の指定を受けた8校が交流会を行いました。ポスターセッションの部では、金栴真子さん(1年6組・大宮中出身)が「食糧問題」について、田村朋恵さん(1年5組・大宮中出身)、増田幸歩さん(1年5組・大宮中出身)、岡井鈴花さん(1年6組・峰山中出身)が「教育問題」について、梅田栞さん(2年4組・峰山中出身)、木下乃絵瑠さん(2年4組・久美浜中出身)が「水問題」について、堀江瑞希さん(2年6組・宇川中出身)が「医療問題」についてそれぞれ3分間の発表を行い、質問に答えました。プレゼンテーションの部では、ESSが「安心して豊かに暮らせる国際社会にするには～京丹後の現状から国際社会を考える～」と題して、英語による8分間のプレゼンテーションを行いました。生徒たちは緊張した面持ちでしたが、一生懸命に発表をしていました。また、松栄堂社長・畑正高さんの講演「国際社会について」も聴くことができました。

<ポスターセッションの発表>



<プレゼンテーションの発表>



2年生人権学習「同和問題に学ぶ」

2月4日(木)の6、7限に、「同和問題」を題材に人権学習を行いました。中世のケガレ感から始まり、日本の歴史の中で長く続いてきた部落差別について学びました。水平社宣言や同和対策事業などさまざまな取組や努力により現在ではかなり解消しているものの、まだ残っている現実を知り、なぜ差別はなくなるのか、どうすれば差別をなくすことができるのかを考えました。

生徒たちには人権問題についてしっかり学んで正しい知識を身につけ、偏見を持たず、世間体にもどわされず、関心を持ち続けることで差別解消につなげてほしいと願っています。

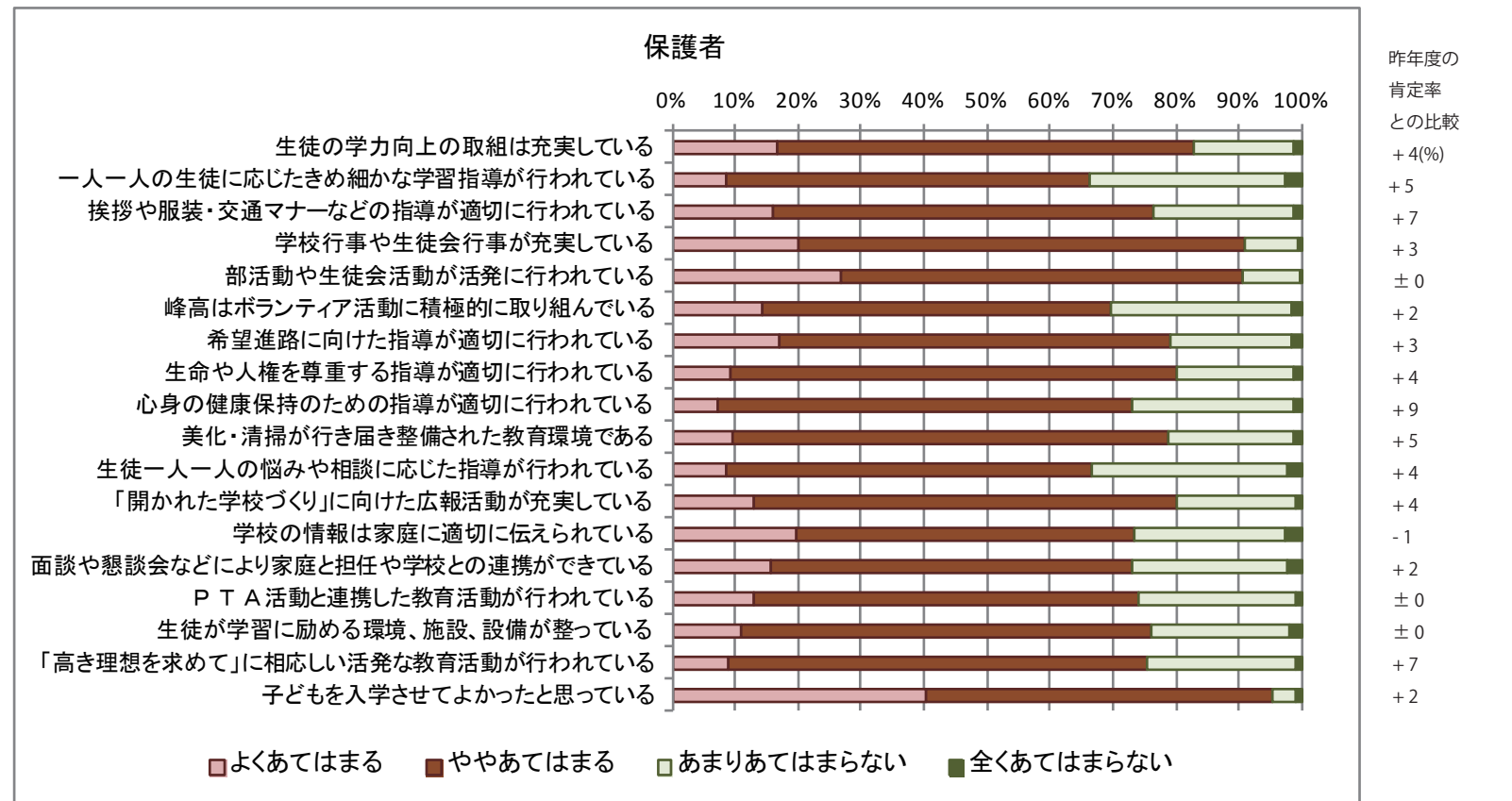


<生徒の感想>

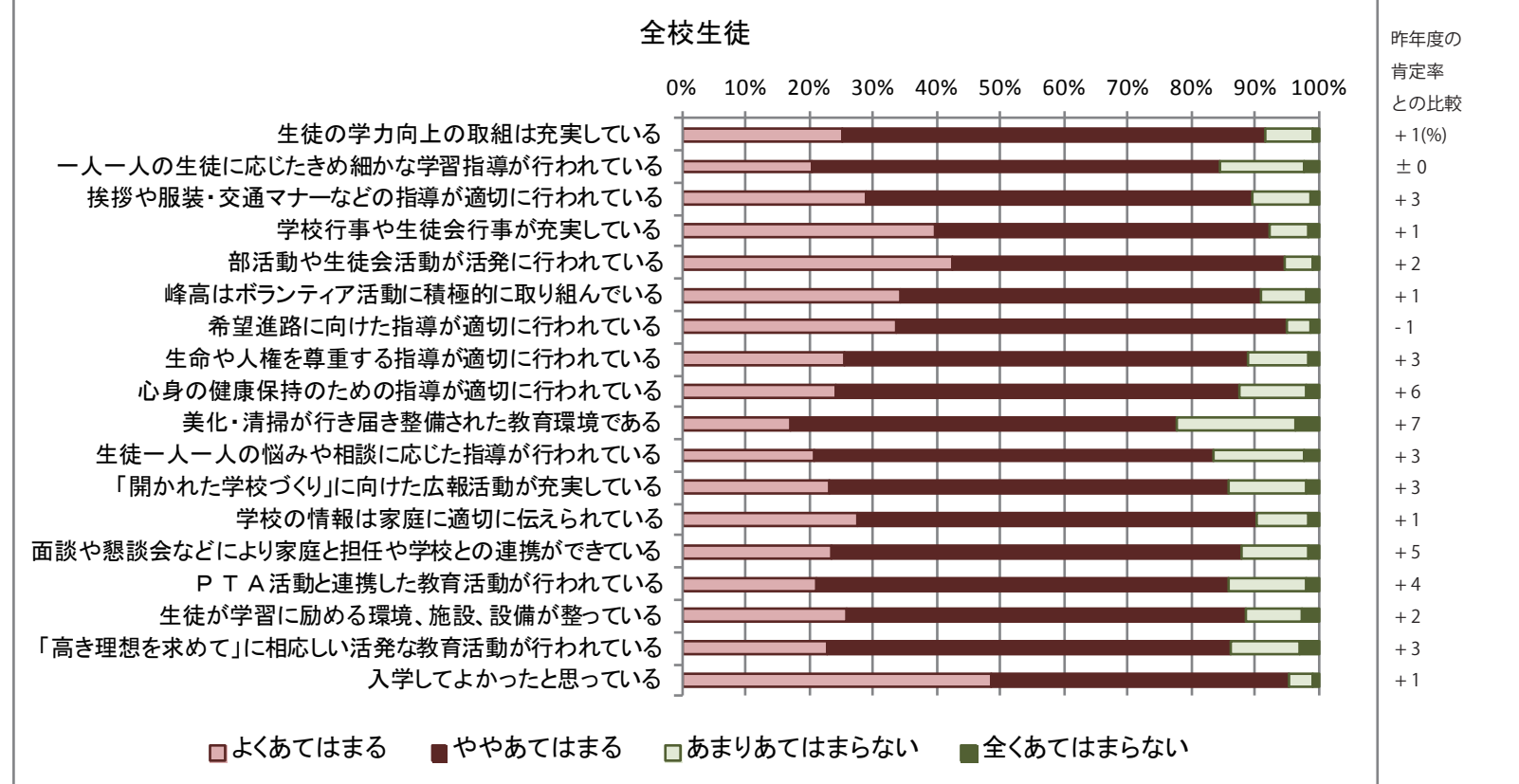
- ・今まで、自分に一切関係のないことだと信じて疑うことをせずに生きてきたけど、自分の考えが浅はかだったと気づかされました。今後、差別と何らかの形で関わることがあるとして、自分が本当に差別の意識を持たないでいられるか少し不安ではあるけど、相手の出身や血筋ではなく、その人の人間性やその人がどう生きてきたのかということに尊重し関わりたいと思っているのでその考えを貫き通します。
- ・部落差別は遠い昔にあったもので今もあるとは思ってなかったので、この人権学習を通して、実体験や先生の話から今も部落差別の意識を持つ人がいるとわかり驚いた。私は部落差別に接する経験をせずにここまで育ってきて、それは社会が少しずつ変わった証拠だと思う。でも、まだ差別のなくなるこの社会で部落差別に遭遇しても「差別はダメ」と言える理由がしっかりと学べて良かった。
- ・そもそも差別する意味とは何だろうか考えた時、誰かの上に立ちたいというのがあるんだと思う。みんな平等っていうのは大切なことだし、人の上に立ちたいければ差別やカーストを作るのではなく、自分の努力で上に立っていけばいいと思う。差別は自分と無関係ということはないので、自分のためにも考えなければならない。
- ・いくら学校で人権学習をしても一人一人の意識がなければ差別はなくならないと思います。自分は差別しないし、されてもいいし関係ない、と思うのではなく、差別問題は自分のことだと思って考えていくことが重要なことだと思います。

学校評価アンケート結果

・保護者 [回答数 477 (69%)]



・全校生徒 [689名]



※肯定率は「よくあてはまる」と「ややあてはまる」の合計の率
<まとめ・保護者>
・回答率は昨年度より4ポイント増加した。
・18項目の肯定率はほとんどの項目が増加し、特に「心身の健康保持」「挨拶・服装」「高き理想を求めて」は7～9ポイントと大幅に増加した。「学校の情報」は全項目の中で唯一1ポイント低下した。「入学させてよかった」は一昨年度は21ポイント増加、昨年度は2ポイント増加し、本年度はさらに2ポイント増加した。
・肯定率90%を超えた項目は「入学させてよかった」「学校行事や生徒会行事」及び「部活動や生徒会活動」であり、80%を超えた項目は「生徒の学力向上」「生命や人権」「心身の健康保持」「美化・清掃」「広報活動」及び「高き理想を求めて」であった。一方で「きめ細かな学習指導」及び「一人一人の悩みや相談」は肯定率70%前後であった。
<まとめ・全校生徒>
・18項目の肯定率は「生徒の悩みや相談」は4ポイント増加し、他の項目については1～2ポイントの増減である。
・昨年度同様、ほとんどの項目において90%近い、あるいは90%を上回る肯定率となった。一方で「美化・清掃」は約2割の生徒が否定的に捉えており、今後の課題である。また、ほとんどの項目で「よくあてはまる」の率が増加した。